

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|--------------------|---------|-------------|
| 事業所番号 | 4091600256 | | |
| 法人名 | 有限会社 やすらぎ | | |
| 事業所名 | グループホーム いちょうの杜やすらぎ | | |
| 所在地 | 福岡県久留米市三瀬町高三瀬491-2 | | |
| 自己評価作成日 | 平成22年10月25日 | 評価結果確定日 | 平成23年12月18日 |

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|---------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部 | | |
| 所在地 | 福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階 | | |
| 訪問調査日 | 平成23年11月8日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|--|
| 職員に看護師を雇用し、提携医療機関との連携を密にして利用者の方々の健康管理を行い、看取りまでできるレベルの高い介護と看護を目指して実践しているホームです。また、学習療法を導入しており、利用者の方々のコミュニケーションに重点を置いた取り組みも行っていきます。家庭的な雰囲気の中で、利用者の方々ができる範囲で役割を持ちながら、ゆったりと楽しく穏やかに毎日を笑顔で過ごしていただけるホームを目指しています。 |
|--|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|--|
| |
|--|

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 該当するものに 印 | 項目 | 取り組みの成果 該当するものに 印 |
|--|---|---|---|
| 58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27) | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21) | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40) | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22) | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

| 自己評価および外部評価結果 | | | | |
|-----------------|-----|--|---|------|
| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 |
| | | | 実践状況 | 実践状況 |
| 理念に基づく運営 | | | | |
| 1 | (1) | 理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 各フロアにホームの理念を挙げており、ミーティングや勉強会を通じて共有する機会を持つようしている。 | |
| 2 | (2) | 事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の祭りやお茶の間学級などに参加させていただくなど、地域に出てホームのアピールに努めている。また、小学校が近いので、訪問を受けたり、子供110番の家にも登録している。 | |
| 3 | | 事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 近くの小学校の生徒、家族及びボランティアなどによる交流により認知症に対する理解を少しずつ深めるよう努力している。 | |
| 4 | (3) | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に1回、区長や老人会会長、民生委員、利用者家族、地域包括支援センター、市職員等に参加していただき、行事報告やホームの現状報告を行っている。また、地域の方からの地域活動等の情報を教えてもらっている。 | |
| 5 | (4) | 市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 利用者の状況報告、相談など、連絡をとりながら対応している。また、法人本部が事業者協議会のグループホーム部会の事務局として活動しており市と連携をとりながらサービスの質の向上に努めている。 | |
| 6 | (5) | 身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束についての研修会に参加し、伝達研修を行っている。また、どのような行為が身体拘束に該当するのか、身体拘束が必要になった場合の対応などについての理解を深めるための勉強会を実施している。 | |
| 7 | | 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 研修会等に参加し、その伝達研修を行っている。また、日々のケアやミーティング等を通じて、普段から利用者の方々に対する言葉遣いや表情に気を配るとともに、虐待についての理解を深められるよう努力している。 | |

福岡県 いちよの杜 やすらぎ

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | (6) | 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 事業者協議会の研修会に参加したり、勉強会を開催するなど、制度についての理解を深め資料やパンフレット等をいつでも閲覧できる場所に置き情報提供できるようにしている。 | | |
| 9 | | 契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | パンフレットや説明書類などを用いて説明し、家族からの相談も、面会時や電話連絡などで随時、相談できるようにしており、説明時は専門用語等を使わない用に配慮し、分かりやすく説明するように心がけている。 | | |
| 10 | (7) | 運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 年に2回程度、家族会を実施しており、意見や要望など話しやすい環境を整え意見交換の場をもうけている。話し合いの内容についてはミーティング等を通じて職員へ伝達し、反映出来るよう努力している。 | | |
| 11 | (8) | 運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月のミーティングに管理者が必ず参加し、各担当係からの意見や提案、また、日頃のケアや業務についてのアイデアなどを話し合う時間を設けている。 | | |
| 12 | | 就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 代表者や管理者は、少しの時間であっても職員と話す時間を持つように努力し、職員が働きやすい環境になるよう心がけている。また、退職や新入社員など家族会の時などに紹介している。 | | |
| 13 | (9) | 人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している | 資格、性別、年齢等にかかわらず、本人のやる気や仕事に対する思いを尊重している。また、仕事に対する意見や要望を出しやすい雰囲気作り、資格取得を目的とした研修参加のための勤務調整など、高いモチベーションを持って働ける環境になるよう配慮している。 | | |
| 14 | (10) | 人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる | 面接、入社時に利用者の有する権利や人権の尊重、職員の倫理等についての説明を行い、入社後も人権、権利擁護等についての勉強会を行っている。 | | |

福岡県 いちよの杜 やすらぎ

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------------|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 15 | | 職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人内やホーム内で定期的に勉強会を行ったり、外部研修にも参加できる機会を設けている。また、各自が勉強したいことなどの意見を元に勉強会を開催するなど、働きながら学べる機会をもうけるようにしている。 | | |
| 16 | | 同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 事業者協議会の研修や交流会への参加、圏域毎の事業者交流会への参加など、他の事業者との交流や情報交換を図っている。また、同業者の見学や相談などもオープンに行っている。 | | |
| 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 17 | | 初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 利用者が思いや希望等を話しやすいような雰囲気作りを心がけている。また、入居後もコミュニケーションを図る時間を多く持つようにしている。 | | |
| 18 | | 初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 家族の利用者に対する思いや不安、ホームに対する希望等を十分に把握できるよう、話しやすい雰囲気作りを心がけている。また、入居後も面会時や電話連絡等により、コミュニケーションを図る機会を持つようにしている。 | | |
| 19 | | 初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 相談時等に十分に話を聴き、必要とされているサービスがあれば関係機関と連絡を取るなどの対応を行っている。また、その人に応じた生活を送っていただくために、当ホームだけでなく他の施設等も見学されるよう努めている。 | | |
| 20 | | 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 利用者が得意としていることやできることは手伝いをしていただいたり、職員と一緒に取り組むことで自信や役割を持って生活いただけるよう支援している。 | | |
| 21 | | 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族が参加していただける行事(敬老会や誕生日会など)を開催し、利用者と一緒に食事をしたり、一緒に過ごしていただける時間を持てるような取り組みを行っている。また、家族会を開催し、家族同士の交流の場も持つ。 | | |
| 22 | (11) | 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 知人の面会や手紙のやりとりをされている方がおり、職員が代わりに投函する等の支援を行っている。また、自宅への送迎が困難な場合は、職員が送迎を行うなど柔軟に対応している。 | | |

福岡県 いちよの杜 やすらぎ

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---------------------------------|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 23 | | 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援 に努めている | 普段からのコミュニケーションにより利用者の 思いや人間関係を把握し、場合によっては職員が が利用者の間に入り利用者同士の関係を良好に保 てるよう配慮している。 | | |
| 24 | | 関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 入院された場合など、職員が面会時に洗濯 物の対応を行ったり、状況に応じて面会時 の様子などを家族へ連絡したりしている。 | | |
| その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 25 | (12) | 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている | コミュニケーションにより本人の気持ちを把握 し、それが日々の生活に反映できるように 努めている。 | | |
| 26 | | これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている | 利用者によっては家から仏壇を持参されて いる方や、月命日を大切にされお供え物を される方、宗教施設へお参りに行かれる方 などおられるため、一人ひとりに応じた支援 ができるよう配慮している。 | | |
| 27 | | 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている | 心身の状態に応じて、一人ひとりがマイペ ースで生活していただけるような支援に努めて いる。 | | |
| 28 | (13) | チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している | 毎月、担当職員がモニタリングを行っている。 また、介護・看護職員、参加が可能な場 合は家族を含めて担当者会議を開催し、介 護計画の見直しを行っている。 | | |
| 29 | | 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている | 連絡ノートや毎日の申し送り等により、日々 の利用者の状況等について共有を図ってい る。また、毎月のモニタリングやミーティ ング、担当者会議等での検討内容をケアプラ ンに反映し、共有するよう努めている。 | | |

福岡県 いちよの杜 やすらぎ

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 30 | | 一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 家族が宿泊や食事の提供、希望時には自宅への送迎の介助などの支援を行っている。 | | |
| 31 | | 地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 教会へお参りに行かれたり、買い物へ行かれる際には、職員が付き添って行くなどの支援を行っている。 | | |
| 32 | (14) | かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 利用者や家族の希望によりかかりつけ医の受診を支援したり、提携医療機関への受診をしている。また、外出が困難な方や体調不良の方等は往診にて対応している。 | | |
| 33 | | 看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 日中、看護師が必ず1名は勤務しており、日常的な健康管理や必要な処置など対応を行っている。また、医療連携先の訪問看護師と連絡を取るなど連携を図っている。 | | |
| 34 | | 入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 見舞い時など、利用者の洗濯物の対応を行っており、その際に入院中の様子や状態など主治医や看護師、相談員さん等から情報収集を行っている。 | | |
| 35 | (15) | 重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 緊急医療体制や看取りについての指針を説明し、利用者本人や家族と十分にコミュニケーションを取りながら意向の把握に努めている。 | | |
| 36 | | 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 毎月のミーティングでの話し合いや、急変時の対応等について学ぶ機会を持っている。また、ほとんどの職員が消防署主催の救命救急講座(心肺蘇生法やAED使用法)に参加し | | |

福岡県 いちよの杜 やすらぎ

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 37 | (16) | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年に2回避難訓練の実施と緊急告知ラジオを設置している。避難訓練時には消防署の立ち会いにより行い指導も受けている。 | | |
| その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 38 | (17) | 一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | プライバシーの尊重についての勉強会等に参加したり、プライバシーを損ねる様な言動や対応に配慮している。 | | |
| 39 | | 利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 買い物希望される時、職員が付き添い一緒に買い物に行ったり、行けない方の代わりに利用者が希望している物を購入してくる等の対応を行っている。 | | |
| 40 | | 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 職員の都合に合わせず、利用者一人ひとりのペースで生活していただけるよう努めている。 | | |
| 41 | | 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 本人希望にて美容室へ行かれたり、お風呂前の入浴準備時、どの服を着たいのかを選んでいただいている。また、数人ではあるが化粧をされる方もおられる。 | | |
| 42 | (18) | 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | テーブル拭き、箸並べ、引膳、食器洗いなど、一人ひとりの状態に応じて手伝いをしていただいている。食事中は極力、職員と利用者と一緒に食事を食べるようにしている。 | | |
| 43 | | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 利用者の好みや食事形態を記入した張り紙を台所に貼り付け把握している。また、摂取量や水分量など看護師等と連携し対応している。変更時や調整が必要な場合には申し送り等により対応している。 | | |

福岡県 いちよの杜 やすらぎ

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 44 | | 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 各利用者にあった口腔ケアを施行。歯磨きの仕上げに口腔綿棒を使用し、この時に口腔状態をチェックしている。 | | |
| 45 | (19) | 排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄の失敗が多い方はチェック表を活用し、排泄の間隔把握、誘導、声掛け等により、少しでも失敗が少なくなるよう支援を行っている。 | | |
| 46 | | 便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 水分量チェックや繊維を多く含む食材を使った食事提供及び体操により体を動かす機会を持つようにしている。 | | |
| 47 | (20) | 入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 利用者の希望に沿い曜日や時間に関わらず、入りたい時間に入浴してもらおう。入浴剤も日により替え気分転換を図ってもらおう。ただし、勤務の都合上、夜間帯の入浴については安全面を考慮して行っていない。 | | |
| 48 | | 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 休息時には居室を少し暗くしお気に入りの音楽を聴かれながら休まれたり、室温・寝具の調節を行い、快適に休んでいただけるよう努めている。 | | |
| 49 | | 服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 誤薬しないために服薬前は一人が名前日付などを確認し、他職員が確認後、服薬していただくなどのチェックを行っている。また、服用している薬の種類や効能については各個人ファイルに服薬情報を添付し職員が見やすい所に置いている。 | | |
| 50 | | 役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 食器洗いや洗濯干し、歌を唄う等それぞれが好きなお事をしてもらいながら自分の居場所、自信を持って頂くよう支援している。 | | |

福岡県 いちよの杜 やすらぎ

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 51 | (21) | 日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 日頃から買い物へと出かけたり小学校の周辺を散歩している。外食や近くの公共の場にドライブに行っている。 | | |
| 52 | | お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | ホームが預かっている。希望時には一緒に買い物に行き、自由に品物を買われるなど職員に気兼ねされない様に支援している。 | | |
| 53 | | 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 希望時は電話をつないだり手紙も書かれた物をおかりに投函するなどの支援を行っている。 | | |
| 54 | (22) | 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 木のぬくもりを感じられる空間で床はパリアフリーとなっている。季節を感じられるように生花を生けることもある。 | | |
| 55 | | 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | テーブルの配置や気分によって一人になりたい時は居室にすごしていただくなど自由に過ごしてもらっている。 | | |
| 56 | (23) | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 各利用者の居室は好みの家具や仏壇を持ち込まれる方もおられる。家族の写真を飾っておられる等、それぞれ家に近い空間を作られている。 | | |
| 57 | | 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 床はパリアフリー、廊下には手すりを設置しており歩行の妨げにならないようにしている。トイレや居室にも場所が分かるようプレートを下げている。 | | |